

裾野市富士山火山防災マップ



富士山火山防災マップ 作成の目的

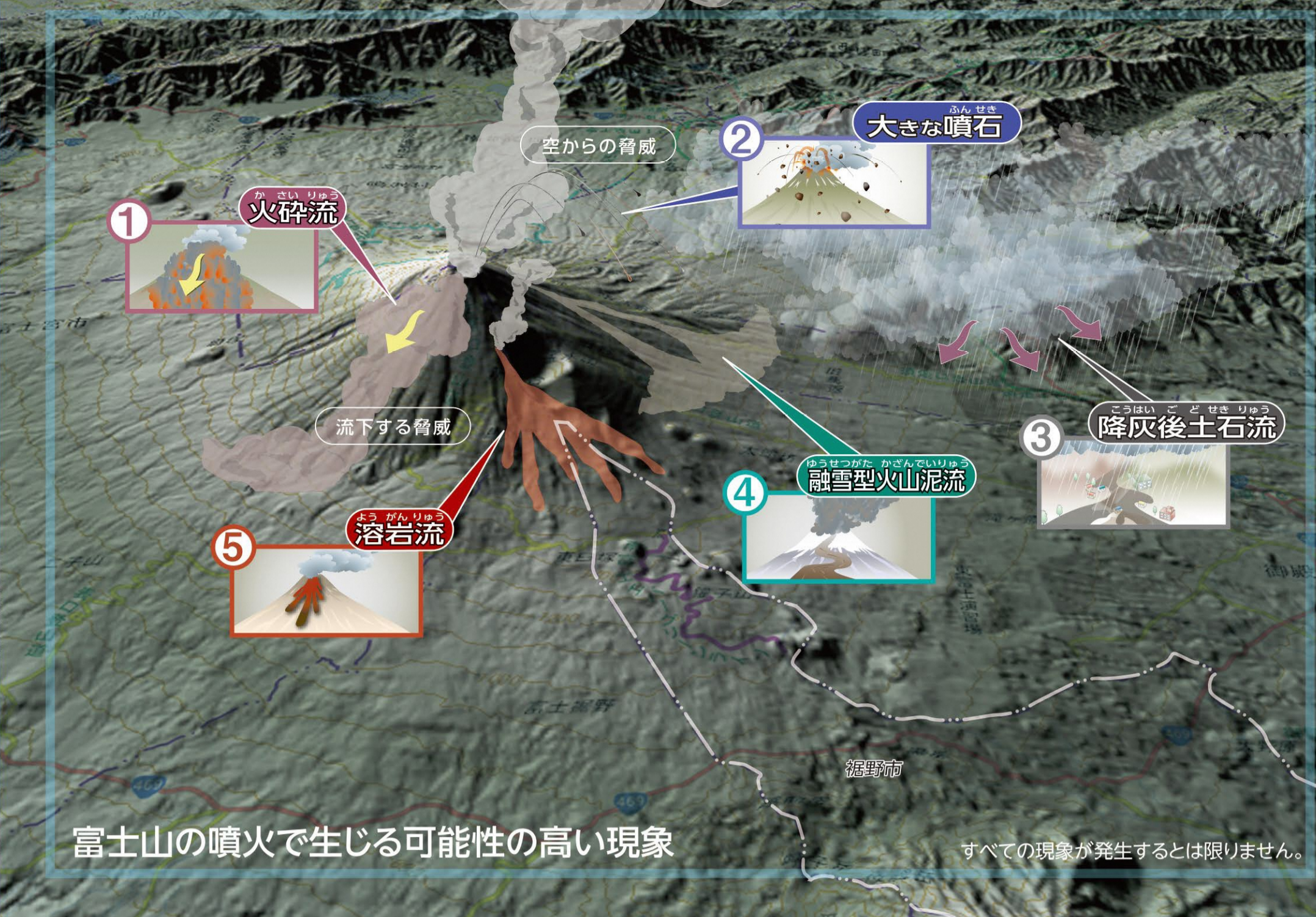
- 富士山火山防災協議会では、最新の富士山の学術調査等の科学的知見と火山専門家等の助言も踏まえ、火山防災対策を進めるため、令和3年3月に17年ぶりの富士山ハザードマップを改定しました。
- 改訂版では、対象とする噴火年代を2,400年通り、最新の調査結果に基づき想定火山口範囲を拡大し、大規模噴火の溶岩の噴出量を約2倍に変更しました。また、大規模・中規模・小規模の3段階に分け、252通りのシミュレーションを行った結果、特に、溶岩流の流下範囲が拡大し、市街地などへの溶岩流の到達時間が早くなりました。
- このように、今回のハザードマップ改定により、火山現象の及ぼす影響が大きく変化しましたので、特に、「避難」しなければならない人が安全・確実に避難するための「新たな避難要領」を考える必要があり、現在、富士山火山防災協議会で検討され、逐次具体化する予定です。

□そして、この改定を受けて、「裾野市富士山火山防災マップ」を作成しましたが、表面の「災害の発生可能性マップ」は、各種火山現象が及ぼす影響範囲を現象ごとに示した領域図です。また、裏面の「溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップ)の重ね合わせ図」は、個々の噴火口から流出した場合に、どこまで到達するかを具体的に示した図であり、小規模・中規模・大規模の噴火規模に合わせた領域図です。

□しかし、各火山現象は同時に発生するものではなく、一度の噴火で色塗られた範囲すべてに危険が生じるわけではないこと、また、この火山防災マップは過去の富士山噴火の調査やシミュレーションをもとに作成しているため、実際に噴火した場合にマップの範囲外に影響が及ぶ等、内容が異なる場合があります。ことに注意が必要です。

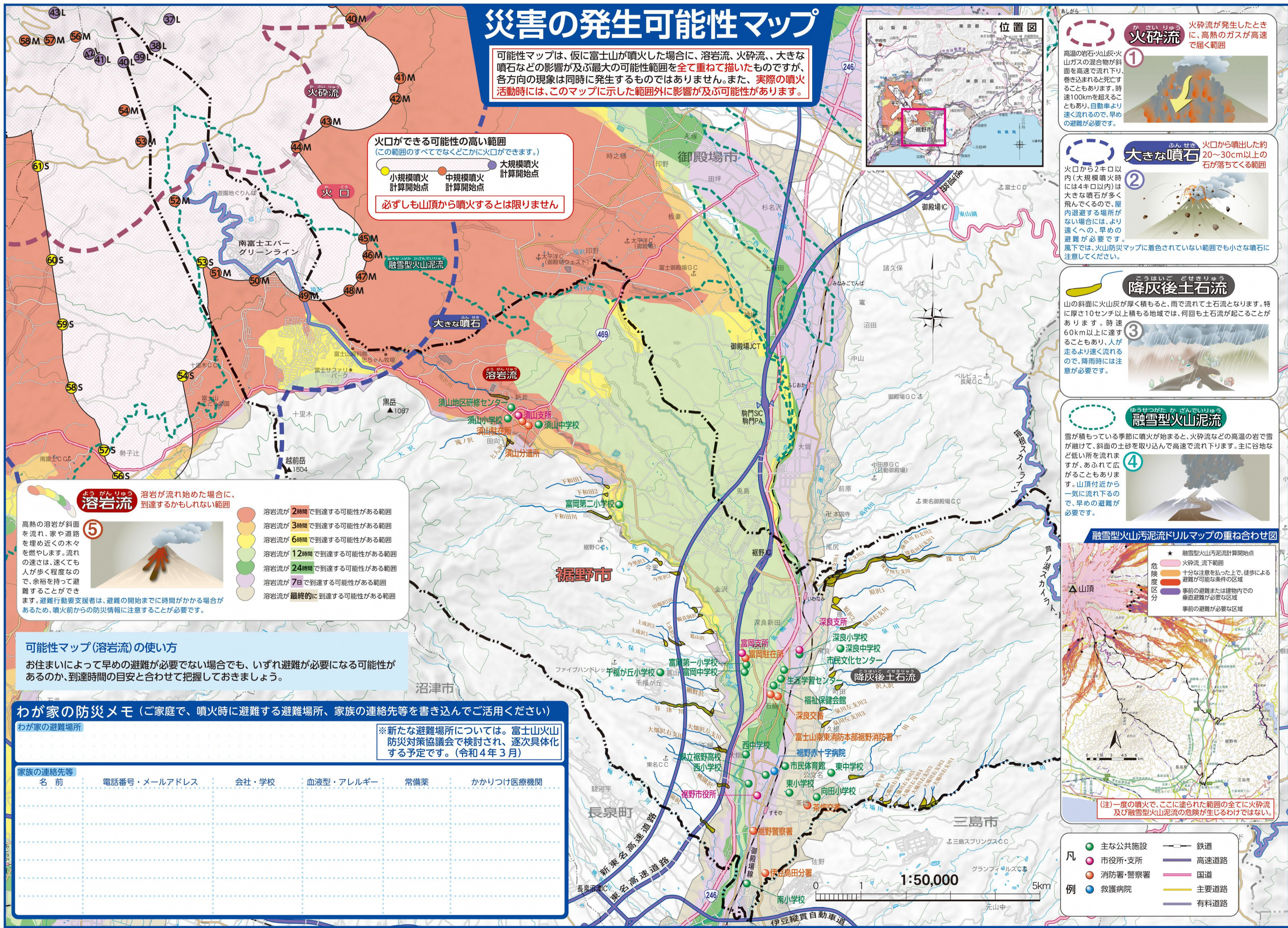
□富士山では様々な観測装置を設置し、噴火予測のための観測が行われており、現時点(令和4年3月)においては、富士山が噴火しそうな兆候はありませんが、万が一噴火しそうな状況で、噴火した時に備えた防災対策は計画しておく必要があります。

□そのために、この防災マップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響が及ぶのかを市民の皆さんに知っていただくとともに、皆さん一人一人が生活する地域・場所の特性を踏まえて、自らの安全を確保するためにどう対応すればよいのかを認識し、この火山防災マップに必要な事項を書き込む等、有効に活用していただく目的で作成しました。



富士山の噴火で生じる可能性の高い現象

すべての現象が発生するとは限りません。



降灰の可能性マップ

細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って速くまで運ばれます。火口の近くでは厚く積もり、遠くにはゆがって徐々に薄くなります。外出を控える車の運転には注意しましょう。



- 降灰があったら...
- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
 - 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ることがあるので、やむを得ず外出する時はヘルメットを着用しましょう。
 - 家は窓を閉めて建物を密封します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
 - 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

降灰後土石流

山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10cm以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

